■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野などの自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50 種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

みちのくの馬文化が育んだ半自然草原の再生に取り組んでいる放牧区では、ヤギ、ヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。車椅子でもボランティアさんが支援して家畜とふれあいができますので、事前にご相談ください。刈った羊毛は手仕事体験に利用しています。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、ノハナショウブ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ等が咲きます。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草を楽しめます。

：山羊ふれあい体験場所へのコース（230m）　：見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳、雁戸山など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んで雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックラン近くの「ゆいっこ橋」を渡って歩いて行けます。

～体験施設～

自然共生情報館

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った料理やそば打ち体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター
ＴＥＬ０２２４－８４－５９９１
〒989－1505
宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松５３－９
http://www.michinoku-park.info/wp/

今日はここを観てみよう！

■草原の冬枯れの野草

カセンソウ

ウツボグサ

メガルガヤ

キキョウ

今日はここを観てみよう！

■草原の冬枯れの野草

今年は夏にツルが猛繁茂し刈払ったので少ないですが、観察してみてください。
1 月に冬枯れの野草を飾るイベントを予定していますので是非ご参加ください。

ノコンギク

エゾミソハギ・ヤマアワ

アヤメ

タムラソウ

みちのく公園北地区

てくてくマップ 自然共生園 12月

今日はここを観てみよう！

■冬のことり

樹林では、シジュウカラやコゲラ等が異なる種類の鳥とともに行動しています。また、枯草の藪には、カシラダカ、マヒワ、カワラヒワなどがタネを求めて群れで集まり、大騒ぎになることがあります。

コゲラ（位置 C･D など樹林）

小型のキツツキでビー、ビーと鳴きながら、コツッコツッと枯れ木などを突きます。

カシラダカ（位置Ａ・Ｅ・Ｆなど　草地）

ホオジロに似ていますが、胸が白いことが異なります。冠羽が特徴です。

アオジ（位置Ａ・Ｅ・Ｆなど　草地）

藪の中で「チッ、チッ」と地鳴きをしながら、目立たないように行動しています。

今日はここを観てみよう！

■冬越しの樹木や蔓（位置 B･C･D･F）

ヒツジが何匹

オニグルミの枝先には羊顔がたくさん。

何の顔？

いろいろな木や蔓にも、顔があるよ。

ガマズミ

イタヤカエデ

クズ

今日はここを観てみよう！

■真冬の風景

カシワの葉（位置Ｄ）

カシワは落葉樹ですが、若木の枯葉は真冬になっても落ちずに枝に付いたままです。葉の付根の落葉するための層ができるのが遅いためです。新しい芽が出てこないと古い葉が落ちないことから、縁起木にされています。

ホンドイタチ（小川沿いなど）

餌が少ない冬の時期は、川魚を狙って水辺を徘徊しているホンドイタチに出会うことがあります。小川も上手に泳いで渡ります。驚かせると、ブッブッブッとおならをします。

ウスタビガのまゆ（位置Ｄ　樹林地）

蛍光色のまゆが木にぶらさがっていたり、地面に落ちていることがあります。大型の蛾のヤママユガの仲間で、晩秋に羽化します。繭の下の方に水抜きの小さな穴があります。